

# 困っている子への対応

～子どもへのまなざしとコミュニケーションスキル～

発表：伊勢原八雲幼稚園  
副園長 林田伸吾

A large, irregular pink brushstroke graphic on the left side of the slide, containing the text '主題設定'.

# 主題設定

集団に入れない子の増加

対応の難しさ

温かい【まなざし】を考えてみましょう！

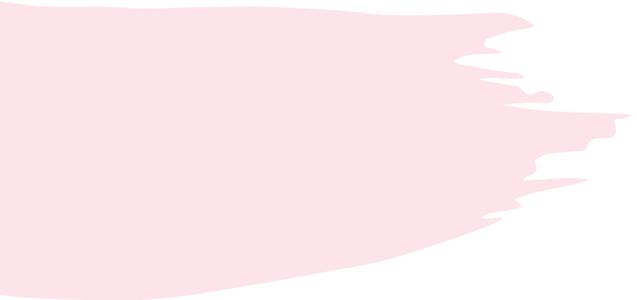


## 例) 集団に中々入れない子の対応

A 参加できそうな活動に参加できるように支援する。

B できる限り参加できるように、方法を探りながら支援する。

AとBどちらか選んでください。



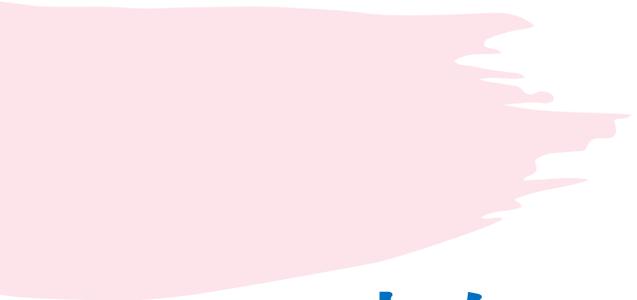
# 【ま な ざ し】

に焦点を当てて考えた

子どもが集団に入れない、  
対応がうまく行かないと悩む時の  
【まなざし】として・・・



困った子ではなく、困っている子と  
して捉えることを基本に！！



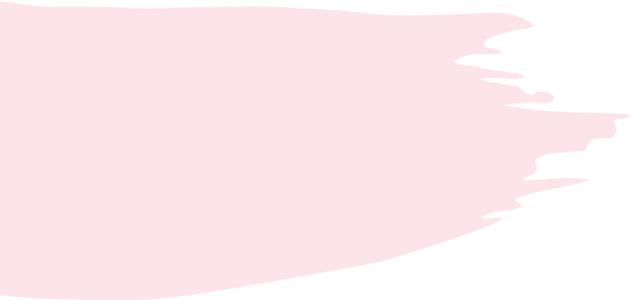
また、問題である行動に  
目を向けるのではなく・・・

**その子の思いに向けることが大切！！**

子どもの問題行動に目を向ける  
= 否定的なまなざし

子どもの思いに目を向ける  
= 肯定的なまなざし

となる！！



**これまでの上記の【まなざし】を踏まえて・・・**

まずは、保育者が . . .

①自分のまなざし **に** 目を向ける (気付く)



私が求めていることが高すぎるかな？  
(ゴール)

ずれているかな？

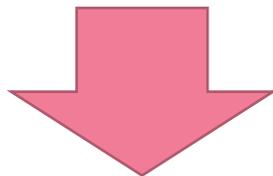
と自分自身の【まなざし】がどうかを考える！

次に . . .

②子どもの出来ているところ **に** 目を向ける

(0か100でなく、1でも2でも5でも  
できたことを認めてあげる)

- ・ 出来ると思えるところ
- ・ 好きなこと、やりたいこと
- ・ あと少しでできそうなこと



# 【子どもがどこまで出来るか】

現状・実態・現在地

に

意識（再認識）を向けていく

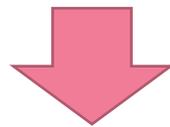


### ③子どもの出来ていることを認める

褒める

子どもが興味を持つことに共感する

一緒に楽しむ



その子と良好な関係となる。(先生が好き、子どもが可愛い)

①②③ と保育者の【まなざし】が変わると



子どもからの【まなざし】も変わる！！



困った目で見ると嫌な先生から



自分のことを理解してくれる先生  
自分のできるところに目を向けてくれる先生  
に変わる

# 結果

- ・まなざしを変えると支援の方法が変わる
- ・まなざしを変えると子どもとの関係が良好となる
- ・まなざしを変えると子どもが成長する



・ 困っている子どもへの対応 記入者（ ）  
～子どもへのまなざしとコミュニケーションスキル～

・ 子どもの年齢【 さい】

・ 特徴・対応した気になる行動など

・ 【 ｝

・ いつ

・ どこで

・ 誰が（子ども）

・ 何をして

・ 保育者の私は（対応） ～した。

・ すると子どもは ～した。

・ 今、考えると（別の見方すると）

思う。

1・2・3 回目研修会で講義や事例を通して  
保育者の「**まなざし**」について学んだが……

その中で、保育者はどうしても気になる子への対応として「**まなざし**」ではなく「**対応方法**」を考えたり・**解決策**を知りたがる姿が見られた！！

「まなざし」の大切さを学んだり、理解しようとするが解決策に直接繋がっていない！！



頭では理解してきているが、**具体的な対応方法**を学び、解決に繋がりたいと考えた。

# 保育者の苦悩・・・

(なぜ、対応方法や解決策を知りたがるか・・・)

早く解決したい・・・

自分を振り返りにくい・・・

でも、解決する時はいつも・・・



# ①信頼関係について

保育者の心得として・・・



子どもたちの信頼関係を築くことは  
どの先生も行っている！！



しかし・・・



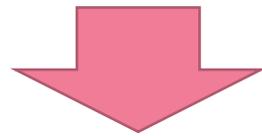
集団に入れない子の特徴として

- ・ 他者に興味がなかったり
- ・ 言葉の理解が遅かったり
- ・ 自分の世界観で完結している子が多い

**関係を築くことが難しい！！**

## ②保育者として

- ・ 特別扱いはだめ、みんなと同じ行動を
- ・ 見本になる行動に近づきたい
- ・ 子どもたちからの視線（正しい対応）



**気になる子どもと関係性を築く際に、  
邪魔してしまう要因に・・・**

### ③保育者のイメージ（資質）

- ・ 担任 ・ ・ クラス全体を引っ張っていく人
- ・ 補助 ・ ・ 集団に入れるようにサポートする人
- ・ 加配 ・ ・ 個別支援する人

## 4 回目の研修会

### 事例 1

### A君の特徴

自閉スペクトラム症、注意欠如多動症  
注意の持続が困難・切り替えが難しい  
興味の偏り、衝動性があり、集団行動は援助が必要

## 石田先生の対応

この研修会の中で、何度かY君とかかわり、面識や関係作りをしてきた石田先生。

職員室で打ち合わせをしていると、A君が顔を覗かせ、バスの図鑑を持っていたので、石田先生からA君にバスの話をした。

## 石田先生の対応① 関係づくりから

バスの図鑑を持っていたのでA君にバスについて話し掛ける。

バスの話をたくさん聞く。  
そして、先生の話も伝える

- きっかけ作り
  - 子どもの興味関心を捉える
- **子どもとの関係作り**

### **傾聴**

人間関係で最も必要なこと！！  
保育者は要求（指示）だけでなく、その子の思いを真剣に、いっぱい受け止め聴く。  
そして先生の思いも伝える。

## 石田先生の対応② 話したい人になれば、その人の話は聞く

なんと、その後A君が、作ったバスを見せにきてくれる。

関係ができれば、好きな先生に認められたい（承認欲求）。もっと話を聞いてほしい。そして、先生の話も聞いてくれるようになる。

### ※その他の事例（強化子）

保育の中で、すぐに「～が良かった」と褒めたり、「頑張ったね」とスキンシップを取ったりするとやる気に。また、ご褒美シールや手作り玩具など、特別に子どもたちが喜ぶことをすることで、良い方向に向かっていく！！

## 事例 2 B君の特徴

運動協調性の問題や、  
集団行動でのコミュニケーションが苦手

遊びや活動中に友だちにぶつかったり、ちょっかいを出す。  
また、遊んでいる時に自分の一方的な思いをぶつけ、友だちに嫌がられる。相手の思いを汲み取って、やり取りすることが難しい。

**石田先生の見解** (K君は石田先生の言葉の相談室に通っている)

子どもは相手の気持ちが分かりにくく、先生が決めた約束は守りにくい。子どもは、自分の思いを否定せずに聞いてもらい、思いを話す機会を与えられたら、自分たちで問題を考えていくことができる。

石田先生からの助言

子どもの思いにまなざしを向ける人と、子どもは関係を作っていく。

**「わたしを分かろうとしてくれる先生」**

子どもの言葉を傾聴する人と、子どもは答えを見出していく。

**「わたしの言葉を正確に聞いてくれる先生」**

# 困っている子へのコミュニケーションスキル

先生が問題解決していませんか？先生が判断・解決するのではなく、子どもは自ら答えを導き出せる存在である。

## 【子ども同士のトラブルが起きた場合】

T:先生 A:Bの嫌がることをした子 B:やられた子

①TはAとBを呼ぶ(二人の思いを傾聴)

TはAに「なにがあったの？」聞く。A「 」。

TはAに「〇〇があったんだね」と、Aの目をみながら、言葉を正確に繰り返す。

TはBに「どう思ったの？」聞く。B「 」。

TはBに「〇〇と思ったんだね」と、Bの目をみながら、言葉を正確に繰り返す。

②AとBはお互いの「思い」を知ったところで、Tは再度AとBの「今の思い」を聞く

Aに「今はどう思う？」 A「 」

Aの目をみながら、TはAの思いを正確に繰り返す。

Bに「今はどう思う？」 B「 」

Bの目をみながら、TはBの思いを正確に繰り返す。

※「よく気が付いたね」など、褒められるポイントがあればすぐに褒める。

③TはAとBの思いをまとめて「繰り返す」

※お互いの思いを1つにまとめる。

T「今はAさんは～とあって、～Bさんは～とあっていたんだね」

#### ④子どもたちの決心を聞く

T「Aさんは、これから～の時はどうする？」 A「 」 TはAの思いを繰り返す。  
「～しようと思っているんだね」※必ず褒める

T「Bさんは、話を聞いてこれから～の時はどうする？」 B「 」 TはBの思いを  
繰り返す。「～しようと思ったんだね」※必ず褒める

#### ⑤今後への期待・先生の願い

※言葉が出なかつたりする場合は先生の願いとして子どもに伝える

Tは「願い」を伝えても良い。「先生は、次からは～してほしいと思っているよ」  
「二人ともしっかりお話できてえらいね」「相手の気持ちに気が付いたんだね。すごいね」  
「さすが〇〇組さんだね」「先生嬉しいよ」

**解決したのは子どもの力!**

**二人とも褒められて次に向かうことができる!**

## 傾聴スキル、繰り返し技法のポイント!

子どもは自分の言葉を繰り返されることで、自分が何を話したか、何を考えていたかがわかる。先生に繰り返えされ、自分の考えに気づき、自分で問題を解決できる。

子どもは正確に聞いてもらえたかが気になる。正確に繰り返してくれる人を信頼する。※「どうして」「何でこんな事したの」とは聞かない。なぜなら「なぜ～したの」は否定過去で、「どうしたら～できる?」は肯定未来だから。

# 困っている子へのコミュニケーションスキル を実践してみて【記録者】

## 【対象児（年齢）】

### 1【場面】

しかし、頭ではわかってきているが、実践に繋げていくことが難しい先生や状況によって今まで通りの対応をしている様子が見られているのが現状である。

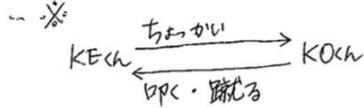
### 2【傾聴による子どもの思いとその変化】

### 3【気がついたこと・子どもとの関係が変わったこと】

# 困っている子へのコミュニケーションスキル (実践)

【記録者】

【対象児 (さい)】 6才児



## 1 【場面】 及び 背景

年長うさぎ組のカラダ見 KEとKO

KEはKOに目鼻のちよかいを出す

KEはおろく人が好き。だが距離感

接し方が不得意。KOのことが嫌いわけではない

よく、本は一冊に遊びたい様子だが、KOはそんなKEを敵対視し、争かざるKEが視界に入ると

- 争かざる
- 作っている争かざる
- べろべろと威嚇
- 栗口での替え歌を口ずかす

## 2 【傾聴による子どもの思いとその変化】

どうも水遊びをしていたKOが気に入らぬKEが寄っていく。

争かざる目付に争かざる

KO「KE、来いよ！」とロクと手を伸ばす

KE「入れて！」(言わぬ)

私「KO、KEと一緒に先ずも仲間に入れて！先生たち、KOの何のお手合いできる？」と尋ね、水を溜め、  
タムに見立てたところから小さな川を作ることを提案

KO「いいね！ KEと先生それやて！」

KE「うん、いいよ！」

私が水に濡れかけたアリを見つけ入ると、KOは持っていたスコップでアリを救う。

KEは怒りの矛先が向かってくることもなく、優しい気持ちで遊ぶことが数十分の間できた。

## 3 【気がついたこと・子どもとの関係が変わったこと】

私「KE、なんでそんなこと言うの？ 言われたらイヤな気持ちになるよね？」

私「KO、手を伸ばすのはイヤだね」

と否定的な言葉を投げかけてしまったり、「何か問題が起きている」と先回り、2人の争い、言動を阻止する

いた「『都合のいい保育』をしている現状を考慮せられた。

普段はKEとKOにそれぞれ1人ずつが付き、必要以上に交わらなようにしているが、2人において、

上記の☆は意味のある行動でありとは思う。

2人の関係性、距離感において目を離すことはできないが、どうも水遊びから数日後、昼食後の担任にお

本の読み聞かせ時、肩が触れ合う距離で座ることができ、2人を信じ、近くでそれを見守った。

2人は、争いなく作り出した基地の中から本を見ていた。

KO「KE、そこ壊れてるからおどして！」

KE「OK！」

とやわらかい表情でやりとりしていた。2人にとって「役割」がとて大切のように思う。補助としてそのおたりの

サポートができるよう、2人の間に立つのでなく、寄り添っていくように思う。

# 実践

## 未就園児教室入会希望 3 名の 子どもの事例

# これまでのやり方

- 保育者とやりとりができるか？
- 遊べるか？
- 切り替えができるか？

など、様子を見ていた。

# 小さな変化を見過ごさない！！

かかわり続けると、これまで見られなかった姿が見られた

- 活動に興味を持ち、チラチラ見るようになる
- 不安になった際に、手を握ったり抱っこを求めてくる
- かかわりの中で笑みを浮かべるようになる

# 結 果

これまでのかかわりを行っていなかったら 見られなかった姿が見られた。

また、保育者としての**願いを表に出しすぎない**ようにし、子どもの思いに立って、安心できる人になり、子どもの小さな変化を見ながら対応していくことで、子どもの方から寄り添って来て、自然と活動に参加できることにつながった。